

広島文教女子大学人間科学部グローバルコミュニケーション学科設置の趣旨等

ア. 設置の趣旨及び必要性

(a) 教育上の理念、目標

1) 広島文教女子大学人間科学部の教育理念、目的と沿革

学校法人武田学園は、昭和 23 年に武田ミキが、「真実に徹した堅実なる女性の養成」を建学の精神として掲げ、広島県安佐郡に、広島県可部女子専門学校を設立したことに始まる。その後、広島県可部女子高等学校、可部女子短期大学の設立を経て、昭和 41 年には広島文教女子大学を開学、さらに、昭和 61 年には広島地区の女子大学では初となる大学院文学研究科を開設するなど、「女性の自立」を目指した女子教育機関として充実・発展を続ける一方、「心を育て人を育てる」を教育理念として、社会に貢献しうる女性の養成に努め、これまでに数多くの有為な人材を輩出してきた。

21 世紀を迎え、ますます複雑化・多様化する現代社会の諸問題を解決するためには、人間を中心に据えた「知」の再構成を図ることが不可欠であり、それこそが、創設者武田ミキが掲げる「心を育て人を育てる」の教育理念を継承し、発展させていく道であるとの認識に基づき、平成 12 年度に文学部から人間科学部に学部名称を変更するとともに、従来からの初等教育学科に加えて、国文学科・英文学科を人間言語学科・人間文化学科に改組転換し、人間福祉学科を新設した（学生定員 420 名）。さらに、平成 14 年度には心理学科・人間栄養学科を増設した（学生定員 560 名、編入学定員 40 名）。平成 16 年に短期大学部専攻科栄養専攻を廃止し、現在に至っている（学生定員 390 名、編入学定員 40 名、収容定員 1,640 名）。

上記の建学の精神・教育理念に基づき、人間科学部は、現代社会を支える学問の基礎・基本となる教養と時代の変化・発展に対応できる専門的学術を教授研究し、深い知識と高い識見と豊かな人間性を養い、もって社会の要請に応えうる人間の養成を目的とした教育・研究を推進している。

各学科の人材養成目標は、人間科学部の教育理念及び目的を踏まえ、次のとおりとなっている。

① 人間言語学科

言葉についての深い理解に裏打ちされた、心を伝え合う力を備えた人材を養成する。

② 初等教育学科

教育に関する専門的な知識や技能を修得し、主体性と協同性を持った逞しい実践力のある人材を養成する。

③ 人間福祉学科

誰もが安心していきいきと暮らすことができる、福祉社会を支える知識と技術をもった心豊かな人材を養成する。

④ 心理学科

心身の健康に関する専門的知識・技能を身につけた、地域に貢献できる人材を養成する。

⑤ 人間栄養学科

健康及び食に関する専門的知識や技術と豊かな人間性を身につけた人材を養成する。

また、学校法人武田学園は、本学の教育理念である「心を育て人を育てる」を基に、教育・研究

の高度化と高度な専門能力を有する人材の養成に向けて、教育学専攻及び人間福祉学専攻の大学院を併設している。

教育学専攻は、教員の資質向上を目的とした「教育学コース」と心理臨床の理論と実践面の能力の育成を目的とした「臨床心理学コース」を設けている。

人間福祉学専攻は、学部で修得した福祉専門分野の知識や技能をより深化させ、個人の尊厳を守る高度な人権意識と倫理観を備えたソーシャルワーカーの養成及びそのために必要な実践的な専門技術の修得と開発を設置の目的としている。

このように、既設の学部、学科は、それぞれの人材養成目標に基づいて学生の教育に努め、平成18年度には、(財)日本高等教育評価機構による認証評価の認定を受けている。しかし、近年の国際社会に見られる急速なグローバル化の進展の中で、各学科の人材養成目標、並びにその教育内容のさらなる見直しの必要性が生じてきている。「言葉についての深い理解に裏打ちされた、心を伝え合う力を備えた人材の養成」を目標とし、日本語又は英語によるコミュニケーション力の修得に力を注いできた人間言語学科では、平成17年に出版された文部科学省の「我が国の高等教育の将来像(答申)」に指摘されている「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代に生きる「21世紀型市民」の養成に向けて、より広い視野で問題を把握する力の醸成と、それをより高い次元で達成するための、多文化の理解を基礎とした総合的なコミュニケーション能力の育成が急務となった。また、本学は専門的職業人の養成を教育目標に掲げ、各学科の専門性を活かしたキャリア教育を実施してきたが、人間言語学科が今後この目標を達成していくためには、より高度な専門能力、特に学生個々のキャリアデザインに即した実践的な英語力の修得が必要となってきた。そのため、現在の人間言語学科を発展的に改組転換し、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性の養成を目的とした「グローバルコミュニケーション学科」の設置を計画した。

2) グローバルコミュニケーション学科設置の趣旨及び必要性

21世紀は、いわゆる「知識基盤社会」の時代であると言われ、新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増している。その特質は、以下のように整理される。

- ① 知識には、国境がなく、グローバル化が一層進む。
- ② 知識は、日進月歩であり、競争と技術革新が絶え間なく生まれる。
- ③ 知識の進展は、旧来のパラダイムの転換を伴うことが多く、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要となる。
- ④ 性別や年齢を問わず参画することが促進される。

高等教育機関としての大学が養成すべき人材とは、上記のような社会の特質に対応できる力を有した「21世紀型市民」であると総括できる。換言すれば、「学士課程教育の構築に向けて(答申)」で示されている、多文化・異文化に関する知識及び人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を深めた人材、コミュニケーション・スキル、数量的スキルや情報リテラシー、論理的思考力や問題解決力、といった汎用的技能に秀でた人材、自己管理能力やチームワーク、リーダーシップ、倫理観、市民としての社会的責任や生涯学習力、といった態度・志向性に優れた人材、統合的な学習経験と創造的思考力の豊かな人材、ということになる。

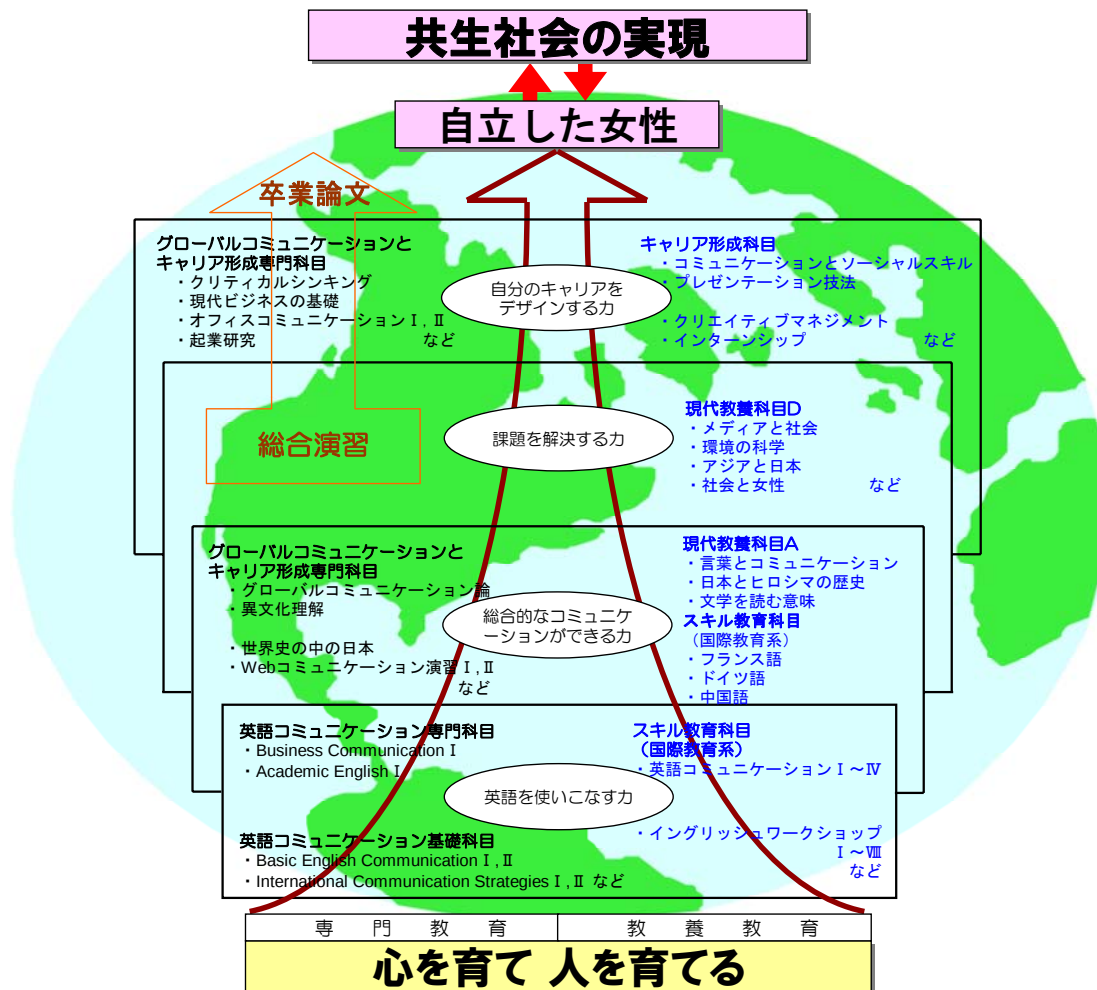
前述したように、知識基盤社会の時代に生きる21世紀型市民の養成に向けて、より広い視野で問題を把握する力の醸成と、それをより高い次元で達成するための、多文化の理解を基礎とした総合的なコミュニケーション能力の育成が急務であり、また専門職業人の養成のためには、より高度な専門能力、特に学生個々のキャリアデザインに即した実践的な英語力の修得が必要となってきた。これらのことを実現するためには、既設の人間言語学科で実施されてきた「言葉についての深い理解に裏打ちされた、心を伝え合う力」というコミュニケーション力の強化だけでは必ずしも十分でない。グローバルな知識の共有・活用のためには、より運用性の高い英語コミュニケーション能力の修得が求められる。また、21世紀型市民として、現代社会をリードしていくためには、技術革新や競争に対応できる汎用性のある能力及び新たな知の枠組みを創造するための幅広い知識と柔軟な思考力を修得する必要がある。

このような認識に基づいて、教育・研究の内容を知識基盤社会の負託に十分応えるものに変革していくため、既存の人間言語学科を改組転換し、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる、自立した女性の養成を目的とするグローバルコミュニケーション学科を設置することとした。

3) グローバルコミュニケーション学科の教育・研究上の理念、目的

高等教育機関としての大学は、急速なグローバル化の進展の中で、知識基盤社会を生き抜くことのできる21世紀型市民を養成しなければならない。そのためには、技術革新や競争に対応できる汎用性のある能力及び新たな知の枠組みを創造するための幅広い知識と柔軟な思考力の修得が急務である。このような社会状況の中で、グローバルコミュニケーション学科は、「心を育て人を育てる」という広島文教女子大学の教育理念に基づいて、より運用性の高い英語コミュニケーション能力を修得させるとともに、理解と共生の基礎となる現代社会の多文化的状況についての認識を深め、非言語領域を含めた総合的なコミュニケーション能力を高めることによって、自らのキャリアをデザインし、その実現に向けて着実に前進することのできる自立した女性の養成を目的としている。

グローバルコミュニケーション学科



グローバルコミュニケーション学科の教育内容は、既設の人間言語学科において展開してきた語学と文化に関する専門領域を継承しつつ、学生が個々に自立していくためのキャリアデザインに対応した領域を付け加え、併せて総合的なコミュニケーション能力の育成を目指したものとなっている。また、人間言語学科で日本語系あるいは英語系に分けて行われていた自己完結型の教育内容を見直し、グローバルコミュニケーションの基礎となる世界と日本の関わりに視点を据えた教育内容に改め、現代教養科目群Aの文化的領域とDの学際的領域を取り込むことによってより充実を図った。基本的には、英語の実践的な運用能力を強化するとともに、コンピュータを用いた情報処理能力の修得、多文化についての確かな理解、現代社会において生起するさまざまな問題の発見とその解決力といった汎用的技能の修得、知識基盤社会で求められる「自己管理能力」「チームワーク」「リーダーシップ」「倫理観」「市民としての社会的責任」「生涯学習力」などの資質を養うための教育内容の充実に努める。

これにより、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性の養成を目指すことにした。

(b) どのような人材を養成するか

グローバルコミュニケーション学科が養成する人材像は、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性である。これは、幅広い教養を身に付け、高い公共性・倫理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、あるいは社会を改善していく資質を有する人材である。従って、グローバルコミュニケーション学科では、4年間の学士課程教育を通して、グローバル化が進む知識基盤社会に必要な、「英語を使いこなす力」「総合的なコミュニケーションができる力」「課題を解決する力」「自分のキャリアをデザインする力」の4つの力を育成することをディプロマポリシーとして掲げる。

1) 英語を使いこなす力

グローバル社会において柔軟な思考力によって知識を知恵に転換させる力を、世界の共通語である英語を用いて育成することにより、コミュニケーションの有効なツールである英語の実践的な運用能力を高め、かつ、社会人として必要な基礎的能力を育成する。ラーニングアドバイザーが常駐する英語オンリーの空間「SALC」の積極的な活用に加えて、語学研修のために奨学金制度を設けて国内外への語学研修を奨励し、本学で培った実践力を実際に英語圏文化の中で磨くことにより、実践的な英語力の伸長が可能となる。

2) 総合的なコミュニケーションができる力

急速に進むグローバル化によって、人や物だけでなく、情報や資本などが国境を越え、相互に依存する関係が深まる中、異なる文化的背景を抱えた人々の間で対話する能力を育成する。経済活動から日常生活にいたるまで、さまざまなレベルの知識や情報を入手、分析し、さらにこれらの課題について多角的かつ論理的に考察し表現するトレーニングによって、総合的なコミュニケーションの能力の伸長を期すことができる。

3) 課題を解決する力

過去から現代に至る人間の多様な文化的所産に目を向けさせ、様々なものの見方・考え方の修得を促すことによって、人間が直面するあらゆる課題が多様な問題の複合体であること、従ってその解決には様々な視野からのアプローチが必要であることが理解される。その理解に基づいて問題を多角的に分析することで、的確な判断によって問題を解決する力を育成することができる。

4) 自分のキャリアをデザインする力

現代のビジネス社会での実践力や英語のスペシャリストとして社会で活躍できる力が求められている一方、生涯にわたって自ら学び続けることができる力も欠かすことの出来ない素養として重要視されてきている。知識を活用する能力や創造性など、知的活動の重要性がますます高まっている中で、単に就職についての基礎能力を高めるだけでなく、自分の将来について見つめる機会を与えることによって、自らの生き方を自ら設計できる能力を育成することが可能になる。同時に、豊かな人間形成に寄与し、在学中だけではなく生涯にわたって学び続ける基礎力を育成することができる。

経済団体連合会は平成17年1月の「これからの教育の方向性に関する提言」の中で、経済界が望む人材を養成するためには、「実社会で必要とされる知識と判断能力を身につけさせることが不

可欠であり、社会のグローバル化に対応するために国際コミュニケーション能力の向上が必要になる」と述べている。また経済同友会は平成 18 年 6 月の「日本のイノベーション戦略―多様性を受け入れ、新たな価値創造を―」の中で、経済団体連合会の指摘に加えて、「自らのキャリアについて考え、志を持ち、それを追求していくことの必要性」を強調している。グローバルコミュニケーション学科が養成を目指す人材は、まさに経済界が指摘した養成すべき人材の姿と軌を一にするものであると考えられる。

また、本学では、平成 20 年 6 月に英語教育専用施設である Bunkyo English Communication Center (BECC) を設置し、教養教育における英語コミュニケーション教育の強化を図った。さらに、グローバルコミュニケーション学科の専門教育においては、豊富な演習授業と自立学習を基調とする Self Access Learning Center (以下 SALC と表記) の学習プログラムをもとに、一人ひとりの学習プランを作成し、英語のスキルを大幅にアップさせることを計画している。

(c) 卒業後の予想される具体的進路

英語を使いこなす力、総合的なコミュニケーションができる力、自分のキャリアをデザインする力、課題を解決する力の上記 4 つの力を培うことで、主に次の 3 つの分野への進路を描いている。

1) 人にサービスや情報を提供する職業

具体的な職業としては、キャビンアテンダント、ホテルウーマン、ツアーコンダクター、通訳・翻訳家、編集者などを目指す。本学では、過去 3 年間にこの分野で 9 名の就職実績がある。これまで、なかなか就職実績が上がらなかったこの分野で、英語を使いこなす力と高いコミュニケーション力を身に付けることにより、就職を希望する学生の要望に応え、実績の向上を図りたい。

2) 自分の個性や感覚を生かした職業

具体的な職業としては、イベントプランナー、広告・宣伝担当者、コピーライター、キャスターなどを目指す。本学では、過去 3 年間にこの分野で 2 名の就職実績がある。未開発の就職分野ではあるが、実践的な英語の運用能力を中心とする総合的なコミュニケーション力の向上と様々な課題を解決できる力の育成によって、これらの分野への就職を希望する学生の要望に応えることが可能となると期待できる。

3) 人の成長を助ける職業

具体的な職業としては、中学校教諭 (英語)、高等学校教諭 (英語)、児童英語教員、日本語教員などを目指す。本学では、過去 3 年間この分野では 28 名の就職実績がある。他の分野に比べ実績は高いが、学校教育における英語科の現場では今後英語による授業が義務付けられることから、授業実践に不安を感じている学生がいることは否めない。この点を克服するためにも、問題解決力、発信力、学習習慣の確立を織り交ぜた演習の充実により、「英語を使いこなせる力」や「コミュニケーション力」という英語の基本的運用能力の向上を実現し、自信をもって教壇に立てる学生の養成が肝要である。具体的な英語の使用場面を設定した言語活動を英語で行うなどの教育活動によって、時代の要請に応えうる、実践的な運用能力を持った教員の養成が期待できる。また、日本語を理解することができない外国人に日本語を教える際に理解の手助けとして世界の共通語である英語を織り交ぜることによって、グローバル社会に柔軟に対応できる日本語教員の養成も期待できる。

(d) 入学定員設定の根拠と定員確保の見通し

グローバルコミュニケーション学科は、実践的な英語コミュニケーション能力を培い、現代社会の多文化的状況に対する正しい認識を育て、実社会に適応する基礎能力を育成するという点においては、現在のところ、広島市内に類似の学科はない。

グローバルコミュニケーション学科の設置について、本学近隣の地方銀行と広島市内のホテルに面接調査を行ったところ、銀行の支店長及び次長、ホテルの副社長の方から、設置に対する強い要望から進学が期待できるという評価が得られた。

また、学校法人武田学園は広島文教女子大学附属高等学校を併設しており、英語を使用した職業を希望する生徒も毎年相当数存在することから、併設高等学校からも一定数の入学者が見込まれる。

また、編入学については、中学校教諭一種免許状（英語）、高等学校教諭一種免許状（英語）の取得、日本語教員養成課程修了証書、児童英語教員養成課程修了証書の授与を目的とした編入学生が見込まれる。中国四国には短期大学47校があり、外国語系・言語コミュニケーション系の学科を有する短期大学が5校ある。そうした短期大学からの編入学者も予想できるため、編入学定員5名の確保が見込まれる。

イ. グローバルコミュニケーション学科の特色

広島文教女子大学人間科学部は、「心を育て 人を育てる」という建学以来の教育理念に則り、「我が国の高等教育の将来像」にある「大学の機能別分化」のうち、「高度専門職業人養成」を目的としている。グローバルコミュニケーション学科は、多文化理解と実践的な英語力を基盤とした総合的なコミュニケーション能力を活かして、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方を必要とする職業分野での専門職業人の養成を目指している。

(a) グローバル社会に対応するための多面的、総合的な教育・研究組織

グローバル社会に対して有能な人材を輩出するために、既存の学問分野の境界を越えた新たな文化研究分野として「国際」や「コミュニケーション」等が確立されつつあり、近年、こうした名称の学部・学科の設置が増加している。

グローバルコミュニケーション学科も、広義には「コミュニケーション」の教育・研究組織として構想しているが、特に英語、多文化理解、さらにキャリア形成の視点から、コミュニケーション力を修得するための教育・研究を行うことに重点をおいている。そのために、コミュニケーション学、言語学、文学、法学、教育学、情報教育学等の教員を専任スタッフとした教育・研究組織を編成している。特に実践的な英語力育成のために、教育学修士及び応用言語学修士のネイティブ教員4名を配置している。

(b) 専門性をもった教養人を養成するための教養教育の重視

「我が国の高等教育の将来像」には、教養教育について「かつての一般教育のような従来型の縦割りの学問分野による知識伝達型の教育や単なる入門教育ではなく、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法等の知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、

現実を正しく理解する力の涵養に努めることが期待される。」と述べられている。

そのために、人間科学部は、平成 20 年に「専門性に立つ教養人」の養成を目指し、教養教育を重視した学士課程教育の改善・充実を図るための教育改革を行った。

この改革では、教養教育の責任体制を明確にするため、新たに教養教育部を設置し、学部共通教育としての教養教育の内容を、教育目標に応じて「人間学科目群」「現代教養科目群」「スキル科目群」「キャリア形成科目群」に再編した。また、1 年次には、人間学科目群に、「文教学入門」や「キャンパスライフプランニング」、「人間科学入門」、「人間科学基礎演習」といった科目を配し、大学での基本的なスタディスキルを獲得するとともに、「心を育て 人を育てる」という教育理念の具現化を図ることを意図した。さらに、3・4 年次では、現代教養科目群を配置することによって、専門基礎分野で得た知識を活かしながら、新しい知識や考え方を新たな枠組みで捉え直し、専門領域で身につけた知見を、学問分野の枠を越えて広い教養へと転化させていく教育課程を構築した。

グローバルコミュニケーション学科においても、既設学科と同様に専門基礎教育を踏まえて現代教養科目を履修する教育課程を編成しているが、特に現代教養科目群 A の文化的領域と D の学際的領域との積極的な連携によって、世界の中の日本という認識に立った多文化的状況に対する理解を深化させるようになっている。

(c) 多文化理解と実践的な英語力に基づくコミュニケーション力を育成する専門教育

急速なグローバル化が進む知識基盤社会において活躍できる 21 世紀型市民を養成するために、広島文教女子大学人間科学部は高度専門職業人養成を目指してきた。来るべき技術革新や競争に対応できる汎用性のある能力及び新たな知の枠組みを創造するための幅広い知識と柔軟な思考力の育成が今後は一層求められる。そこでグローバルコミュニケーション学科では、そのような能力を次の 4 つの力として具体化し、専門教育科目を中心にその育成を目指している。グローバル社会における有効なコミュニケーションツールである「英語を使いこなす力」、異なる文化的背景を抱えた人々の間で対話する能力を育成する「総合的なコミュニケーションができる力」、自分の将来について見定め、自らの生き方を自ら設計できる「自分のキャリアをデザインする力」、人間社会が直面する課題の特性を見きわめ、その解決に向けて前進する「課題を解決する力」があいまって、グローバルコミュニケーション学科が目指すコミュニケーション力の育成が可能となる。

(d) 副専攻課程の設置による厚みと幅のある教育・研究の推進

「我が国の高等教育の将来像」で指摘されている通り、近年の学問分野の学際化・融合化や、社会において求められる幅広い知識と柔軟な思考能力を持つ人材養成等の、多様な要請等に対応する手段として、主専攻・副専攻制は有効な方策と考えられる。

人間科学部では、各学科の専門教育課程（主専攻）とは別に、平成 21 年 4 月から、国際ビジネスコースと情報ビジネスコースからなるキャリアデザイン副専攻課程を導入している。いずれも本学の教養教育科目群と各学科の指定する専門教育科目を履修することで課程を修了する。

また、資格取得に必要な科目・単位を修得し、インターネットの利用技術に関して、一定の知識を身につけ、ウェブページのデザインを計画及び管理運営する知識を身につけた人に与えられる「ウェブデザイン実務士」の取得もできる。

副専攻課程を活用することによって、グローバルコミュニケーション学科の教育は一層幅と厚みのあるものになる。たとえば、国際ビジネスコースを副専攻として履修する場合には、英語以外の

外国語科目の履修による多文化理解の深化が期待できる。また情報ビジネスコースを副専攻として履修する場合には、マルチメディアにおけるより高度な操作技術の修得が可能となる。

副専攻課程の履修については、入学時に副専攻課程と副専攻カリキュラムを説明し、副専攻の履修を希望する場合には、年間履修単位の上限を超えない範囲で3年次までに必要な課目を履修し、4年次前期の履修登録前に希望する副専攻履修を登録する。登録時に不足する科目があった場合には、4年次前後期で履修する。

ウ. 学部、学科等の名称及び学位の名称

学部学科の名称 「グローバルコミュニケーション学科」

学位の名称 「学士（文学）」

急速なグローバル化が進む現代社会にあつて豊かな未来を築くためには、人類の相互理解に基づく共生社会の実現が必要である。そのための必須のコミュニケーションツールとされる実践的な英語コミュニケーション能力を身につけ、知識基盤社会に生きる21世紀型市民の養成に向けて、より幅広い視野で問題を把握する力の醸成と、それをより高い次元で達成するための多文化への深い認識を備えた総合的なコミュニケーション能力を有する女性の養成が急務である。このように、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性の養成を目的として、多文化・コミュニケーションに関する教育・研究を推進する「グローバルコミュニケーション学科」を設置することとした。

学位の名称については、グローバルコミュニケーション学科の教育・研究の目的が広義には「文学」の一分野であることや、英文表記の国際的通用性を考慮し、「学士（文学）」とする。

英訳 学科 Department of Global Communication

学位 Bachelor of Arts

エ. 教育課程編成の考え方及び特色

グローバルコミュニケーション学科は、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性を養成することを目的としている。この目的に沿い、グローバルコミュニケーション学科の教育課程は、学部共通科目として位置づけられた教養教育科目とともに、英語の実践的な力を身につけ、多文化理解と共生の基礎となる総合的なコミュニケーション能力を高めることによって、高度専門職業人として活躍できる力を修得できるよう専門科目を配置し、総合的に学習していくよう編成している。また、グローバルコミュニケーション学科では、社会や文化の多様性に関する認識の深化を図り創造的思考力を育成するため、専門科目に加えて、3・4年次に学部共通科目として開設される現代教養科目群の中で、現代教養科目群Aの文化的領域とDの学際的領域の科目の中から8単位以上の履修を義務付けている。

1) 授業科目群の構成

① 教養教育科目

平成 20 年 12 月 24 日に提出された中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」の中で指摘されているように、「教養教育や専門教育などの科目区分にこだわるのではなく、一貫した学士課程教育の構築」を目指して、「心を育て 人を育てる」の教育理念に代表される「文教らしさ」と「学士力」の融合をテーマに再構築し、『教養ある専門人』の養成から、『専門性に立つ教養人』の養成へと方針を切り替えた。すなわち、教養教育科目を、「基礎教育科目」「国際教育科目」「情報教育科目」「生涯教育科目」から「人間学科目群」「スキル教育科目群」「現代教養科目群」「キャリア教育科目群」へと再編し、1 年次から 4 年次まで、専門科目と並行して履修することとし、さらに、現代教養科目は、『専門性に立つ教養人』の養成の集大成として、3・4 年次に 12 単位以上の履修を義務付けた。これにより、学生はしっかりと目的意識を持って学習する態度が形成され、より幅広い教養を体系的に修得できるよう計画している。（別紙資料 1：グローバルコミュニケーション学科授業科目一覧参照）

i) 人間学科目群

人間学科目群は、大学での学習・研究の出発点となる科目群である。「文教学入門」「キャンパスライフプランニング」「人間科学入門」「人間科学基礎演習」「フィールドワーク演習」など、自校教育、スタディスキルの修得、ライフプランニング力や相互の理解と共生を目指したコミュニケーション力の育成を通して、謙虚で優雅な人間性を育み、優しく温かい心で他者を思いやる心を持てるようにすることを目標にしている。

ii) スキル科目群

スキル科目群は、大学在学中と卒業後の社会で必要とされる基礎的な技能を修得することを目的としている科目群であり、多文化理解の基礎となる「国際教育系」、急速に進展する ICT 化に対応するための「情報教育系」、生涯を通して学習し続ける基礎的な態度を養う「生涯教育系」で構成している。

iii) 現代教養科目群

現代教育科目群は、過去から現代に至る人間の多様な所産に目を向け、それを通じて様々なものの見方・考え方を修得して、科学的思考、倫理観、多文化理解、社会情勢・自然・文化への理解を図ることや、直面するどんな問題でも多様な問題の複合体であることを知り、様々な視野からのアプローチが必要であることを理解することを目標にしている科目群である。「基礎的な素養」にあたる A・B・C の 3 分野、「総合的な視野」にあたる D の分野、そして様々な資格等に関連する E の分野から構成している。また、現代教育科目群は、従来の一般教育科目における基礎的、導入的な教育内容に留まるのではなく、1・2 年次で修得する人間学科目やスキル科目、並びに専門基礎科目の内容を踏まえ、『専門性に立つ教養人』の養成の集大成として、総合的に物事を捉えて課題解決に向けての道を探るといった創造的思考力の育成を目指している。特に「欧米と日本」「アジアと日本」「地域と社会」「社会と女性」「メディアと社会」など、社会や文化の多様性に関する認識の深化に配慮した科目の配置に特色がある。

iv) キャリア教育科目群

キャリア教育科目群は、「キャリア形成概論Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップ」「コミュニケーションとソーシャルスキル」「ビジネス文書」「プレゼンテーション技法」「クリエイティブマネジメント」などの科目を配置し、一般的な常識や倫理観を備え、他者とのコミュニケーション力や課題に対して自立して解決できる実務能力や、職業を通して社会の形成に寄与できる人として常に学び続ける意思を持てるようにすることを目標にしている。

② 専門教育科目

専門科目には、専門基礎科目（英語コミュニケーション、グローバルコミュニケーションとキャリア形成）、専門応用科目（英語コミュニケーション、グローバルコミュニケーションとキャリア形成）の科目領域を設け、学科の人材養成の目標に基づいて基礎から応用へと着実に学習の深化を図れるよう工夫して科目を配置している。

i) 専門基礎科目

○英語コミュニケーション科目

この科目群では、「Basic English CommunicationⅠ・Ⅱ」「International Communication StrategiesⅠ～Ⅳ」「Reading StrategiesⅠ～Ⅳ」「Writing StrategiesⅠ～Ⅳ」「英語学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「英語学概論」「英米文学概論」など、「読む・書く・聴く・話す」といった英語コミュニケーションの基本的な力を身につけるための科目と、グローバルコミュニケーション学科が卒業段階で英語コミュニケーション能力の目安としている TOEIC のトレーニング科目も配置されている。

○グローバルコミュニケーションとキャリア形成科目

この科目群では、「グローバルコミュニケーション論」「異文化理解」など、多文化理解の基礎となる科目を配置して、多文化的状況への正しい理解とその認識の深化を図れるように配慮している。また「話しことば概論」「話しことば表現演習」「日本語文章論」「日本語文章表現演習」「WEB コミュニケーション演習Ⅰ」「マルチメディアコミュニケーションⅠ」「オフィスコミュニケーションⅠ・Ⅱ」など、多文化間理解の基礎力を育成し現代社会で活躍するための総合的なコミュニケーションの基礎知識や常識を修得するための科目、さらに、高度なコミュニケーション・スキルが要請されるビジネスの現状に触れ、自己のキャリアデザインを描き、ビジネスに関する意識を高めるための科目を配置している。

ii) 専門応用科目

○英語コミュニケーション科目

この科目群では、「Tourism EnglishⅠ・Ⅱ」「Business CommunicationⅠ・Ⅱ」「English for EducationⅠ・Ⅱ」「Academic EnglishⅠ・Ⅱ」「English in Popular CultureⅠ・Ⅱ」「Hospitality EnglishⅠ・Ⅱ」などの、様々な課題の解決に役立つ実践的な英語コミュニケーション能力を高めることを目指す科目と、英語コミュニケーション能力のバックボーンとなる「英語学研究」「英語学講義」「英語の音声」「英語ディスコース研究」「英米文学研究」「英米文学講義」「英米文学史」などの、英語学、英米文学に関する科目を配置している。また、近年、特に注目されてい

る児童英語に関する科目も履修できるようになっている。

○グローバルコミュニケーションとキャリア形成科目

この科目群では、「世界史の中の日本」「国際社会と日本の役割」「英語文化圏論」「漢字文化圏論」「日本文化論」「観光地理Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置して、日本や世界の文化や風土を理解するとともに、日本と世界を比較検討しながら多文化的状況への理解を一層深め、すぐれて現代的な課題に取り組むための基礎力の育成にも配慮している。これらの科目を教養科目に配置されている現代教養科目群Aの文化的領域とDの学際的領域の科目と併せて学ぶことにより、多文化理解に関する総合的な学習が可能となっている。また、「ロジカルシンキング」「ファイナンスの基礎」「e-ビジネス」「起業研究」などのような、現代社会で働くために欠かすことのできない基礎知識、常識、マナー等を含めたより専門性の高いキャリアを形成するための科目は、高度なコミュニケーション・スキルが要請されるビジネスの現状に対する理解を深め、自己のキャリアデザインの確立を目指している。

iii) 卒業研究

3年次の前後期に「総合演習Ⅰ・Ⅱ」の選択科目を履修し、人類共生の諸課題について解決法を模索する演習を行う。演習で修得した課題解決力を土台として、学生は、研究課題を設定し指導を担当する教員を選択して、4年次の必修科目である卒業研究につなぐことができるようしている。4年次の前期開始時には、卒業研究作成に関するガイダンスを行い、学生は、指導教員の指導のもとに卒業研究としてまとめる。卒業研究は、提出後、内容や発表等により成績評価を行い、単位認定する。なお、卒業研究作成に関わる指導等は、指導教員が適宜行うこととする。

オ. 教員組織の編成の考え方及び特色

グローバルコミュニケーション学科は、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性を養成し、地域社会の発展に貢献することを目的としている。この目的を達成するために、グローバルコミュニケーション学科は、専任教員を12名配置する計画である。12名のうち、教授4名、准教授4名、講師4名である。

グローバルコミュニケーション学科における教員組織の考え方及び特色は、以下のとおりである。

(a) 現代社会における総合的コミュニケーション能力の修得のための教員組織の編成

現在のグローバル化した社会において英語が必須のコミュニケーションツールとされるのは、誰もが認めるところである。国内外の様々な状況において、英語の使用の重要性は、今後も一層高まるであろう。また、昨今のインターネットをはじめとする情報通信ネットワークの目覚ましい進歩に伴い、それを通してのコミュニケーションも急速に発達し、英語を使用することで、私たちの活動の場は大きく広がっていくことが予測される。さらに、言語によるコミュニケーションに加えて、グローバル社会での相互理解と共生を図るためには、それぞれの言語を生み出した歴史的・文化的な背景を知ることも必要であり、著しい広がりを見せる非言語コミュニケーションの世界も視野に

入れ、総合的なコミュニケーション能力を高めることによって、様々な課題を解決する力が求められている。こうした社会の要請に対応するために、コミュニケーション学や応用言語学等の分野を中心として、教育学博士1名、教育学修士3名、文学修士3名、応用言語学修士2名と豊富な教育研究実績を有する教員組織を編成した。特に、必須の国際コミュニケーションツールである英語の修得のために、教育学修士及び応用言語学修士のネイティブ教員を新たに増員した。

(b) キャリア形成にかかわる教育・研究のための教員組織の編成

前述の総合的なコミュニケーション能力を高めることによって、様々な専門的職業で活躍できる力を修得できるように総合的な学習を展開し、キャリア形成にかかわる教育・研究にも資するために経済学や情報工学等における専門的な知見と研究力及び豊富な教育的実践経験を有する教員を配置した。

(c) 教員の年齢構成と定年規定

専任教員の年齢構成は、60歳～70歳3名、50歳～59歳1名、40歳～49歳5名、40歳未満3名である。「グローバルコミュニケーション学」という新たな学問分野の構築に必要となる実践的研究の推進、さらには、学科が目指す教育目的を達成するために、各世代の教員をバランスよく配置した。

なお、本学の定年に関する規程（武田学園就業規則）は、教育系職員の職位のいかんにかかわらず65歳であり、また、武田学園嘱託職員就業規則により、定年後も専任教員として勤務することが可能である。

カ. 教育方法、履修指導法及び卒業要件

(a) 卒業要件と履修方法

1) 卒業要件及び履修方法

履修基準は、人間科学部共通とする。具体的には、教養教育科目32単位以上、専門教育科目62単位以上の合計124単位以上を修得することと卒業時における入学時からの累積GPA値が1.5以上であることを卒業要件とする。

教養教育科目は、次のような履修基準を設ける。

- ① 人間学科目群から8単位以上
- ② グローバルコミュニケーション学科においては、現代教養科目群（A～D）12単位のうち、A及びDの学科目を8単位以上履修すること
- ③ スキル教育系科目群の国際教育系から8単位以上、情報教育系から2単位以上、生涯教育系から2単位以上

また、卒業に必要な124単位の中には、他学科の専門教育科目を20単位まで履修することができる。

さらに、実践的な英語能力の修得を目的としているグローバルコミュニケーション学科では、卒業要件として、卒業時にTOEIC 600点以上の取得を原則としている。なお、600点未満の学生は、

卒業のための英語集中ゼミへの参加が義務付けられる。

2) 授業方法と学生数の設定

グローバルコミュニケーション学科の授業科目は、セメスター制を採択し、授業方法は、講義・演習・実習の3つである。講義については2単位、演習は1単位、実習は1単位とする。

学生数の設定については、英語スキル系科目（演習科目）の1クラスの学生数は25名を超えないものとし、講義科目については、学生数の設定はしない。

3) 授業科目の学年配当

教養教育科目のうち、人間学科目群、スキル科目群及び現代教養科目群（E）は、1年次から4年次にわたって配当する。現代教養科目群（A～D）は3・4年次に配当する。

専門教育科目については、専門基礎科目群は、科目の目的から、主に1・2年次に配当する。専門応用科目群は、開設する科目内容の系統性等を勘案しながら、2年次から4年次にわたってバランスよく配当した。

(b) 履修モデルと履修指導

1) 履修モデル

少人数教育のメリットを活用し、学生個人の適性と能力に応じた教育を展開する工夫をしている。具体的には、1年次から4年次まで、講義、演習、実習等が有機的に関連付けられるように教育科目が配置しており、それらの教育・指導に基づいて、学生は自らの適性や能力に応じて重点履修科目を選択し、専門演習や卒業研究へと学習を深めていくことになる。

1年次では、必修の専門基礎科目として、英語コミュニケーション科目のうち「Basic English Communication I・II」「Reading Strategies I・II」「Writing Strategies I・II」「英語学基礎演習 I・II」といった演習中心の科目を通して実践的英語コミュニケーション能力の伸長を目指し、グローバルコミュニケーションとキャリア形成科目のうち「グローバルコミュニケーション論」「異文化理解」「話しことば概論」「話しことば表現演習」「現代ビジネスの基礎 I・II」「オフィスコミュニケーション I・II」といった講義中心の科目を通して、「多文化理解」「キャリア形成」「課題解決」「コミュニケーション」の基礎的な力を育成する。

特に、英語コミュニケーション科目の「Basic English Communication I・II」は自立学習を支援する科目であり、クラス単位での学習を経験した後、個々の語学能力と目標に沿って自立学習へと移行する過程で、教員から個別に提供された学習プランを学習成果の評価・指導を受けながら進めることで、実践的な英語力を確実に修得できるよう配置した。さらに、学生の興味・関心を喚起し、グローバルコミュニケーションとキャリア形成科目の専門基礎科目を履修する中でも、早い時期に専門領域の学習に対する動機づけを高める。これらの授業では、学生が興味を持つ課題を設定し、レポート提出を課すことなどを通して、大学教育の仕組みや研究の方法など、アカデミックスキルの修得にも重きを置く。

2年次では、より高度な能力を育成するために、専門基礎科目「Reading Strategies III・IV」「Writing Strategies III・IV」「International Communication Strategies I・II」「WEB コミュニケーション演習 I」「マルチメディアコミュニケーション I」の演習・講義科目を必修科目とし

て履修し、新たに「英語学概論」「英米文学概論」「日本語文章論」「日本語文章表現演習」「現代ビジネスの基礎 III・IV」の演習・講義科目を選択科目として履修できる。また、2 年次より専門応用科目「英語学研究」「英米文学研究」「世界の中の日本」「英語文化圏論」「ロジカルシンキング」「クリティカルシンキング」等といった選択科目が配置され、より専門性の高い 3・4 年次の専門応用科目につないでいけるよう配置されている。

学外での英語フィールドワークの実習も開始し、より実践的な英語力と課題解決の能力が育成できる。

3・4 年次では、適性、能力、進路希望に応じて専門応用科目を選択履修するように計画されている。英語コミュニケーション科目では「Tourism English I・II」「Business Communication I・II」「English for Education I・II」などで、よりキャリア系の専門性の高い英語スキルを修得し、「英語学講義」「英語の音声」「英米文学講義」「英米文学史」などで、英語の背景となる知識を蓄積する。グローバルコミュニケーションとキャリア形成科目では「漢字文化圏論」「日本文化論」「国際社会と日本の役割」などで多文化への理解を深め、「日本語の音声」「日本語の表現」「WEB コミュニケーション演習 II」「マルチメディアコミュニケーション II」でコミュニケーション能力を高め、「観光地理 I（国内）」「観光地理 II（海外）」「ファイナンスの基礎」「e-ビジネス」などで専門的なキャリアをデザインする力を修得する。

こうした 1 年次から 4 年次までのカリキュラムの中で、学生は履修モデルとして①英語スペシャリストプログラム(通訳・翻訳者、英語教員等)②ビジネスコミュニケーションプログラム(流通・金融等の国際的企業等)③ホスピタリティコミュニケーションプログラム(旅行・航空・ホテル・出版広告等)を選択できる。

(別紙資料 2：①英語スペシャリストプログラム(通訳・翻訳者、英語教員等))

(別紙資料 3：②ビジネスコミュニケーションプログラム(流通・金融等の国際的企業等))

(別紙資料 4：③ホスピタリティコミュニケーションプログラム(旅行・航空・ホテル・出版広告等)参照))

また、3 年次の前後期に「総合演習 I・II」の選択科目を履修し、人類共生の諸課題についての解決法を模索する演習を行う。演習で修得した課題解決力を土台として、学生は、研究課題を設定し指導を担当する教員を選択して、4 年次の必修科目である卒業研究につなぐことができるようしている。

本学科では、2 年次に「TOEIC I・II」を開講し、社会的に評価される実践的英語力を育成する。同科目は、3・4 年次においても継続して受講していくことができるが、原則として、卒業時まで TOEIC 600 点をクリアすることを求めている。なお、TOEIC 600 点未満の学生は、卒業のための英語集中ゼミへの参加が義務付けられる。

2) 履修単位の上限設定と GPA による厳格な成績評価

学士課程教育の質の維持・向上を図るために、グローバルコミュニケーション学科では、履修単位の上限設定(CAP 制)を行う。上限は、1 年次から 4 年次までの各期 22 単位、年間 44 単位までとする。履修単位の上限設定については、入学時のガイダンス等でその趣旨等について詳細に説明を行い、上限を超えた履修がないようにする。なお、上記の履修モデルについては、全て設定した履修単位の上限を超えないものである。

また、教育の質の保証に向けて、授業科目ごとにシラバスに具体的な到達目標、授業内容・計

画及び成績評価の方法を明示するとともに、成績評価は、「秀 (90～100, グレードポイント 4.0)」、「優 (80～89, グレードポイント 3.0)」、「良 (70～79, グレードポイント 2.0)」、「可 (60～69, グレードポイント 1.0)」、「不可 (59 以下, 0.0)」の 5 段階評価を行い、本学が定める算出式に基づいて GPA を算出し、学生の履修指導及び卒業要件のチェックに活用する。また、優れた成績を修めたと認められる学生には、学年毎に履修単位の上限を累積 GPA に連動させ、次のように認める。

①直前の学年までの累積 GPA が 3.5 以上の者 52 単位

②直前の学年までの累積 GPA が 3.0 以上 3.5 未満の者 48 単位

3) 他大学における授業科目の履修

本学は、広島県内の国公立大学（一部、岡山県、島根県、山口県の大学及び広島県内の高等専門学校を含む）が組織している大学コンソーシアム（「教育ネットワーク中国」）に加盟している。このコンソーシアムでは、単位互換協定を締結していることから、加盟大学が単位互換科目として提供している授業科目を履修した場合には、他の大学又は短期大学の授業科目を履修したものと見なし、学則第 23 条に基づいて、60 単位を限度として本学における授業科目の履修単位として認定する。また、米国の大学との間で締結している「広島文教女子大学とケント大学との間における研究及び教育の協力に関する協定書」に基づく、研修留学プログラム（夏期研修・長期留学）で履修した科目についても、夏期研修で 6 単位まで、長期留学で 30 単位まで単位認定する。

4) 学生の総合的な支援体制

入学時から卒業までの学生の総合的な支援体制は、次に示すとおりである。

① チューター制による個別的指導の強化

1 年次から学生に対してチューター制を配置し、学生の個別指導（学習や生活、さらにキャリア形成等に関する指導・助言等）を行う。チューターは原則として専任教員が担当する。チューターの主たる業務は、履修や学習上の相談・指導、進路指導などである。さらに必要がある場合（単位の履修状況が芳しくない場合や精神的な課題等を抱えている場合等）には、保護者との連携等も含める。

また、学科会で、専任教員全員で学生指導にかかわる情報を相互に交換し、チューターを中心に指導の充実・強化を図る。4 年次からは、卒業研究を担当する教員がチューターとしての役割を担う。

② クラス制による集団指導の強化

前述のチューターは、同時にクラス担任として配置され、学生生活全般や進路等の指導を行うとともに、学生間の交流を促すことによって学生の人間関係力の涵養を図る。なお、クラスに対する指導等は、授業以外の時間（昼休みや放課後等）を活用して行う。

③ オフィスアワーによる学習指導の強化

グローバルコミュニケーション学科でも、学生の個別的な学習指導等を強化するためにオフィスアワーを導入する。入学時から学生にオフィスアワーを積極的に活用する習慣の形成をさせる

ために、各期開始時のガイダンス等において、オフィスアワーの活用について理解させるとともに、実際に活用させる。

④学生相談室と学習支援室における総合的な修学支援

学生の精神面での支援を強化するために、平成 18 年 4 月に学生相談室を整備し、心身の健康を始め、大学生生活全般にかかわる悩みに対して解決を支援してきた。また、学生の学習面での支援を強化するために、平成 20 年 4 月に学習支援室を設置し、学生の補習や学習方法改善等の支援をしてきた。学習支援室及び学生相談室においても、グローバルコミュニケーション学科の学生の学習面・精神面に関する相談・助言を、チューターと支援室メンバーとの緊密な連携のもとで行う。

⑤キャリアセンターにおける就職支援

学生の就職を強化するために、平成 18 年 4 月にキャリアセンターを設置した。学生のキャリア形成等に関する個別指導や相談、就職試験や内定獲得のための準備を支援している。グローバルコミュニケーション学科の学生の就職支援を、チューターとセンター員との緊密な連携のもとで行う。

キ. 施設・設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

平成 18 年に（財）日本高等教育評価機構により認証評価の認定を受けており、基本計画書に示すように、学生一人当たりの面積は 58 m²となっており、現有の状態で十分に機能するため、特に整備を必要としない。

(b) 校舎等施設の整備計画

1) 教員研究室等

平成 18 年に（財）日本高等教育評価機構により認証評価の認定を受けており、基本計画書に示すように、教員全員の研究室が確保されており、現有の状態で十分に機能するため、特に整備を必要としない。

2) 講義室

平成 18 年に（財）日本高等教育評価機構により認証評価の認定を受けており、基本計画書に示すように、現有の状態で十分に機能するため、特に整備を必要としない。

3) 演習室

平成 18 年に（財）日本高等教育評価機構により認証評価の認定を受けており、基本計画書に示すように、現有の状態で十分に機能するため、特に整備を必要としない。

4) Bunkyo English Communication Center (BECC)

8号館のBECCは、3階建ての英語学習専用施設で1階はネイティブ教員の研究室とCafe、2階はSALCと呼ばれる自立学習支援するシステムを備えたスペース、3階は5つの教室からなっている。この施設の特徴的な場所は2階で、ここでは会話は全て英語のみで、予約すればいつでもネイティブ教員から個別指導を受けることができる。また、海外から有名な映画のDVDや日本の漫画を輸入して、学生たちが気軽に英語に触れることができるようにしている。3階の教室には全員にノートパソコンが用意されており、最新の音響機器やプロジェクター、ビデオカメラなども利用して、多角的に英語学習が行える環境が整備されている。延べ床面積は、約1,100㎡で、英語学習専用のスペースとしては十分な広さが確保されている。

5) 自習施設

自学自習のためのスペースとしては、図書館の1階及び2号館1階の文教ホールⅢを利用する。図書館の1階は収容定員約64名で、パソコンやプリンターが備え付けてある。また、2号館1階の学習ホールⅢは収容定員約70名で、無線LANを整備し、個人のパソコンを持ち込むことによってインターネットに接続できる環境を整える計画であり、文教ホールⅢは、土日を含めて夜9時まで利用可能とする予定のため、自学自習のための時間を十分に確保できる。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、昭和37年の短期大学創設以来、生活・食物栄養・国文・英文・幼児教育の諸学科について、昭和41年の大学開設を経て、以後、時代の要請に応えながらの組織及び学科改編を行ってきた。現在は、人間科学部のみの単科大学として、人間言語・初等教育・人間福祉・人間栄養及び心理の各学科を擁し、また、特色ある資格科目「司書教育」の、約40年間に亘る歴史を併せ持っている。

これら諸学科の教育・研究に資するものとして収集、提供してきた図書館資料の構成は、文学を中心とした非常に多様性に富むものである。

現図書館は、平成12年4月に新館オープンした地上5階建ての複合施設として三層からなり、総床面積3,000㎡、30万冊の蔵書収容能力を有し、閲覧室座席数は、(学生数、現在約1,200名に対して21.5%に相当する)258席を配備し、その充足率が高い。

施設・設備に関連しては、閲覧室は大窓からの採光や什器類の抑えた高さによって、広やかな空間を特徴づけており、電動集密書架、空気調節、冷暖房完備等の資料保存環境も整備され、蔵書として、図書約21万冊、雑誌種類数約3,500種、視聴覚資料約7,000点の管理が円滑に行なわれ、図書資料は年間約3,000冊を受け入れ続けている。また、貴重資料の約5,000点を除いた蔵書の全てが開架式排架をとっており、利用者が直接手にとって閲覧できる環境を整備している。

新学科のベースである人間言語学科の資料については、継続的に整備・充実を図っており、新学科関連資料として、「コミュニケーション」に限っての狭義の範囲内での数量は、和洋図書約3,000冊、和洋雑誌約50種が挙げられるが、文化・日本史等幅広い分野で捉えると、現蔵書の活用によって十分な数量といえる。

今後の図書の整備については、従来どおりに、各学科を代表する教員によって構成された図書委員会による、本学教育目的に沿った、各学科のカリキュラムやシラバスを基にした収集方針を踏襲しながら、また、学科を超えての資格科目や教養科目等の収集にも一層力を入れて、バランスのとれた蔵書の整備を行なっていきたい。ただし、新学科での新たな教育・研究内容であるビジネス

分野に関しての資料は、専門分野としての収集に不足しているので、開設年度及び完成年度に向けて整備を図っていく。

本学蔵書の電算化についてはほぼ完了し、図書館 HP を通して、利用案内、蔵書検索及びリンク情報等の一般公開を行っている。電子情報としては、国立情報学研究所学術コンテンツ・ポータル中の『CiNii』や『MAGAZINEPLUS』、各種新聞記事 DB 等を導入して、新聞・雑誌・論文情報等を提供しているが、引き続いての契約を通して新学科用にも供することができる。

電子ジャーナルに関しては全学科対応として、現在、THOMSON GALE 社が提供する DB『Academic One File, InfoTrac Custom Journals—250 titles』と契約しており、社会科学・人文科学などの学術分野から選べる 250 タイトルの雑誌からの論文閲覧が可能となっているが、さらに、新学科対応として、ビジネス情報及び世界各国の新聞・雑誌・通信記事等を網羅した、大学向け総合情報サービス DB『LexisNexis (レクシス・ネクス) Academic』の契約を検討中である。

他組織との連携としては、私立大学図書館協会、中国四国地区大学図書館協議会及び広島県大学図書館協議会に加盟しており、加盟館同士では特に緊密な相互協力体制をとって、利用者からの多様なニーズへの迅速な対応が可能となっている。また、昨年度より、県内の公・私立大学の研究者の学術論文・報告書など、多彩なコンテンツをインターネット上で無料公開していく広島県大学共同リポジトリ『HARP』に参画し、リポジトリの構築を進めている。

さらに、図書館としての社会貢献については、一般公開によって地域の利用者の生涯学習支援を目指しており、広島県公共図書館との相互協力協定を結んで、より幅広いサービスとその質の向上を目指している。

ク. 入学者選抜の概要

(a) 入学者選抜の基本方針

グローバルコミュニケーション学科は、実践的な英語力を身につけ、グローバルな視野で幅広いものの見方・考え方ができる自立した女性の養成を目的としている。この目的に基づき、次の 2 点をアドミッションポリシーとした入学者の選抜を行う。

- ・ 英語に興味を持ち、英語の学習・研究・スキルアップとキャリアをつないで、将来において英語を用いて多様なビジネス場面で活躍しようとする意欲の旺盛な人
- ・ 本学の英語教育プログラムに興味を持ち、将来においても英語に接しながら継続して学んでいく意欲を有し、さまざまな場で他人と円滑なコミュニケーションをもって活躍しようとする意欲の旺盛な人

同時に志願者の多様な資質能力を総合的に判断・評価することができる選抜方法を設定する。

(b) 入学試験制度

入学者選抜は、以下の方法によって行うこととする。

1) 一般入学試験

一般入学試験は、大学入学資格を有する者を対象に、次に示す 2 種類の選抜方法で行う。また、受験機会を増やし、幅広く生徒等を募集するために複数回の試験を実施する。

① 一般入試（前期）

前期においては、個別学力検査の成績により合否を判定する。個別学力検査は、以下に示す試験科目から、英語を含む2科目もしくは3科目を選択し、それらの成績により、合否を判定する。

試験科目 英語（英語Ⅰ・Ⅱ，リーディング・ライティング）、国語（漢文を除く国語総合，現代文，漢文を除く古典）、数学（数学Ⅰ・数学A）、世界史（世界史B）、日本史（日本史B）、化学（化学Ⅰ）、生物（生物Ⅰ）

② 一般入試（後期）

後期においては、小論文によって判定する。

2) 大学入試センター試験利用入試

大学入試センター試験利用入試を希望する志願者は、センター試験成績により判定する。

3) 推薦入学試験

学習意欲の旺盛な者、実践的英語力の修得に興味関心を持つ者、特定の分野で優れた能力や成果を持つ者等、幅広く生徒を受け入れるために、次に示す推薦入試を実施する。

① 推薦入学試験（前期）

小論文又は基礎力調査[英語（英語Ⅰに相当する内容）又は国語（総合のうち現代文）]，面接及び提出書類を資料として総合的に判定する。

② 推薦入学試験（後期）

小論文又は基礎力調査[英語（英語Ⅰに相当する内容）又は国語（総合のうち現代文）]，面接及び提出書類を資料として総合的に判定する。

4) AO 入学試験

AO 入学試験は、自らの明確な将来像を描きながら、取り組むべき課題を一つひとつ発見・思考し、確実に自己表現していくことのできる志願者への受験機会を広げるためのものであり、大学での学びの体験をきっかけに、自らの思考を深める学科体験方式により実施する。

5) 社会人特別入学試験

平成22年4月1日現在、22歳以上の者で、次の各号のいずれかに該当する者である。

- ・ 高等学校を卒業した者
- ・ 学校教育法施行規則第150条の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

募集人員は若干名とし、小論文と面接を総合して判定する。

(c) 入学試験区分別の募集人員

募集要項に明示する入学試験区分別の募集人員は、推薦入学試験で25名（定員の35.7%）、AO入試で15名（定員の21.4%）、一般入試で18名（定員の25.7%）、大学入試センター試験利用入試で12名（定員の17.1%）とする。

ケ. 取得可能な資格

該当なし

コ. 実習の具体的計画

該当なし

サ. 企業実習や海外語学研修の実施とその具体的計画

本学は、平成6年4月、アメリカ合衆国オハイオ州ケント大学との間に「研究・教育の協力に関する協定」を結び、「ケント大学における研修プログラム」をスタートさせた。このプログラムには7月下旬から8月下旬までの「夏期研修」と7月下旬から3月下旬までの「長期留学」の2コースがある。どちらのコースも、大学キャンパス内で寮生活を送りながら研修を受ける。研修中に取得した単位は、夏期研修では6単位まで、長期留学では30単位まで、本学の単位として認定される。

シ. 昼夜開講制

該当なし

ス. 編入学の具体的計画

(a) 編入学定員を設ける趣旨及び理由

- 1) 大学、短期大学、専門学校卒業生へ広く学習機会を提供する。
- 2) 大学の門戸を広く社会に開放し、地域の生涯学習の推進に貢献する。

(b) 編入学年次と編入学定員

編入学年次は3年次の年度当初とする。編入学定員は、5名とする。

(c) 編入学学生募集の対象

中国四国には短期大学47校があり、外国語系・言語コミュニケーション系の学科を有する短期大学が5校ある。そうした短期大学からの編入学者も予想できるため、編入学定員5名の確保が見込まれる。

(d) どのような人材を養成するか

- 1) 英語に興味を持ち、英語の学習・研究・スキルアップとキャリアをつないで、将来において英語を用いて多様なビジネス場面で活躍することを希望する者
- 2) 本学の英語教育プログラムに興味を持ち、将来においても英語に接しながら継続して学んでいく意欲を有し、さまざまな場で他人と円滑なコミュニケーションをもって活躍することを希望する者

(e) 選抜の方法

広島文教女子大学編入学規程に基づき、志願者に対しては、学力検査、面接、健康状態及び在学

中の大学等の学業成績により、総合的に選考を行い、教授会で合否判定を行う。

(f) 既修得単位の認定方法

- 1) 既修得単位については、編入学生が本学に入学する以前に在学した大学、短期大学及び高等専門学校において修得した単位について、62 単位を上限として本学を卒業するために必要な単位として認定する。
- 2) 編入した学生は、入学試験に合格し、所定の入学手続きを行う際に、既修得単位の認定を希望する科目リストを提出する。既修得単位の認定については、本学の編入学規程に基づき、グローバルコミュニケーション学科に類似した学科を卒業した者は、既修得単位を教養教育科目として 32 単位を一括で認定し、専門教育科目として 30 単位まで認定する。それ以外の学科を卒業した者は教養教育科目として 62 単位を一括認定する。
- 3) 入学する学生からの希望に基づいて、教授会は、読替える科目を確定するとともに成績判定を行って既修得単位の認定を行う。
- 4) 編入学規程に基づき、入学前に履修した科目の内容、シラバス等によって、読替えの可否等を判定する。
- 5) 編入学後は、本学の定めるカリキュラムに従って、編入学時に認定された単位を含めて卒業要件である 124 単位以上の取得と本学の定める GPA 値をクリアしなければならない。

(g) 履修指導方法及び教育上の配慮

編入直後に個人面談を行うとともに指導教員（チューター）を配置し、指導教員の指導・助言のもとで教育課程において十分な学習成果が挙げられるように履修計画を作成する。既修得単位認定の結果をもとに、履修上不利にならないように、卒業に必要な科目、資格取得に必要な科目、その他履修が望ましい科目等を調整し、3・4 年次の履修計画を立てる。この履修計画のもとに、指導教員が個別に履修・学習指導等を行う。なお、履修計画に際しては、編入学生の希望するキャリアデザインに応じて、履修モデルを提示しながら、きめ細かい履修指導を行う。

セ. 学部、学科等の別地設置

該当なし

ソ. 社会人を対象とした教育の実施

該当なし

タ. メディアを活用した教育の教室外での実施

該当なし

チ. 通信教育の実施

該当なし

ツ. 管理運営

教学面における管理運営は、教授会及び大学運営協議会を中心に行っている。それぞれの構成員、審議事項等は、以下のとおりである。

(a) 教授会

1) 教授会の構成員

構成員は、学長、副学長並びに専任教授、准教授、専任講師及び助教である。

2) 教授会の審議事項

教授会は、大学の教育目標を達成するため、次の事項について審議する。

- ・ 学術の研究及び教授上重要な事項
- ・ 教育課程の履修に関する事項
- ・ 学生の試験に関する事項
- ・ 入学試験の実施に関する事項
- ・ 授業及び行事に関する事項
- ・ 入学、退学、休学、復学、転学科、転学、編入学、再入学、除籍及び卒業に関する事項
- ・ 学生生活の支援及び賞罰に関する事項
- ・ 学長補佐会より付議された事項
- ・ その他、必要と認める事項

3) 教授会の召集

教授会は、原則として毎月1回開催し、学長が召集する。なお、緊急に審議する必要がある事項が生じた場合には、臨時教授会を開催する。

(b) 人事教授会

教員の選考(採用及び昇進)については、教授のみをもって構成する教授会において審議し、決定する。

1) 人事教授会の構成員等

人事教授会は、学長、副学長及び専任教授で組織し、3分の2以上の出席により成立し、出席者の3分の2以上の賛成をもって決する。

2) 審査委員会の設置

教員選考のために審査委員会を設置する。審査委員会は、当該学科の教授に他学科の教授1名以上を加えた4～6名で構成し、選考のための審査を行い、その結果を人事教授会に報告する。

(c) 大学運営協議会

1) 大学運営協議会の構成員

学長、副学長、研究科長、学科長等、学生サポートセンター長、キャリアセンター長、入試・広報センター長、学園統括部長、学長補佐室長、その他学長が指名した者である。

2) 大学運営協議会の審議事項

大学運営協議会は、大学の教育方針に基づき、教育目的を達成するために、次の事項について学

長の決定に先立ち審議する。

- ・ 大学の運営全般に関する事項
- ・ 将来計画に関する事項
- ・ 入学及び入学試験に関する事項
- ・ 教育・研究の目的，方法等に関する事項
- ・ 教育課程に関する事項
- ・ 教育・研究の校務分掌及び組織運営に関する事項
- ・ 教育・研究組織の人事計画に関する事項
- ・ 教育・研究に係る予算及び執行に関する事項
- ・ 危機管理に関する事項
- ・ 各種規程の制定及び改廃に関する事項
- ・ 学長補佐会より付議された事項
- ・ その他，大学運営に関する必要な事項

3) 大学運営協議会の召集

大学運営協議会は，教授会に先立って開催し(原則として1週間前)，学長が召集する。

(d) 教授会以外に関連する委員会等

1) 各種委員会

教授会のもとには，大学の教育目標を達成するために，6つの委員会と7つのセンターを設け，センター内に専門委員会等を置いている。各委員会等は，所掌事項について協議し，教授会の審議事項として提案，又は報告している。

- ・ 委員会
 - ①大学評価委員会，②入学試験委員会，③人権委員会，④教育懇談会実施委員会，⑤附属図書館委員会，⑥障害学生支援委員会
- ・ センター・専門委員会等
 - ①学生サポートセンター(教務委員会， 学生生活支援委員会， 留学支援委員会， 学生相談室)
 - ②教職センター(教員免許状更新講習運営委員会， 幼・小教諭専門委員会， 中・高， 栄養教諭専門委員会， 保育士専門委員会)
 - ③キャリアセンター
 - ④入試・広報センター(広報委員会)
 - ⑤総合教育・研究センター(教育・研究企画委員会， 学習支援室)
 - ⑥エクステンションセンター(司書講習運営委員会， 子育て支援室)
 - ⑦心理教育相談センター

2) 教養教育部

平成 21 年度の教養教育科目の全面改定に伴って新設した。教養教育について，円滑な運営並びに教育方針の統一を図るとともに，各学科及び校務運営組織との連携にあたることを目的としている。

テ. 自己点検・評価

(a) 自己点検・評価の目的等

本学においては、自己点検・評価を、建学の精神・大学の基本理念に則り、高等教育機関としての使命・目的を遂行していくうえでの重要な指標として位置づけ、全学一体となって自覚的に検証を行い、自発的かつ積極的に改革・改善に取り組んでいる。

本学では、平成 3 年度に「広島文教女子大学自己点検・評価委員会規程」を定め、教職員が「自己点検・評価の結果について、適切な方法をもって教育・研究活動等の向上のため活用するよう努める」ことを目的として（同規程第 9 条）、広島文教女子大学自己点検・評価委員会（以下「自己点検・評価委員会」という）を設置し、自己点検・評価活動を開始した。その後、平成 17 年度に、(財)日本高等教育評価機構により認証評価を受けることを決定し、広島文教女子大学評価委員会（以下「大学評価委員会」という）を編成するとともに、リエゾンオフィスを設置し、平成 18 年度には、認証評価に際し、自己点検・評価委員会は、大学評価委員会、同拡大委員会及びリエゾンオフィスと連携し、大学評価に向けて報告書の作成をはじめとする実質的な活動を行い、『平成 18 年度自己評価報告書』及び資料編を刊行し、(財)日本高等教育評価機構より認証評価の認定を受けた。

平成 20 年度には、認証評価における経験を踏まえて、組織改革を行い、自己点検・評価体制のさらなる充実を図り、自己点検・評価委員会を広島文教女子大学自己点検・評価専門委員会（以下「自己点検・評価専門委員会」という）と改称し、大学評価委員会の下で、引き続き自己点検・評価活動の実務を担うこととした。また同時に、それまで総合教育・研究センターの下部組織であったファカルティ・ディベロップメント委員会も、ファカルティ・ディベロップメント専門委員会（以下「FD 専門委員会」という）と改称し、自己点検・評価専門委員会とともに、大学評価委員会の下で、FD 活動の実務を担うこととした。

FD 専門委員会は、大学目標に基づき、FD の推進と実施を目指して、①FD の PDCA サイクルの構築、②新しいシラバスの構築、③ユニバーサルパスポートによる授業評価のシステム化と実施、④教員による授業評価を受けての自己点検・評価及び FD 活動案作成、⑤GPA 制度の導入、という目標を立てて実務を遂行した。

(b) 実施体制

本学では、効果的な自己点検・評価を実施していくための体制として、自己点検・評価を統括する組織である大学評価委員会を設置し、その下に、自己点検・評価活動、FD 活動の実務を担当する、自己点検・評価専門委員会、FD 専門委員会を置いている。

大学評価委員会は、学長を委員長とし、副学長、附属図書館長、自己点検・評価専門委員長、教育・研究企画委員長、FD 専門委員長、研究科長、各学科長、各センター長、自己点検・評価専門委員会委員、学園統括部長、学園統括部学長補佐室長、学園統括部参与、学園統括部総合支援課長、学園統括部総合情報課長、及び学長が必要と認めた者若干名によって構成されている。自己点検・評価専門委員会及び FD 専門委員会は、それぞれ委員長と、大学院（2 名）、各学科（各 1 名）、及び学長が必要と認めた者若干名からなる委員によって構成している。

(c) 実施方法

自己点検・評価専門委員会は、「広島文教女子大学自己点検・評価専門委員会規程」（以下「自己点検・評価専門委員会規程」という）に従って、大学院、各学科、各センター、各委員会、各施設及び学園統括部等（以下「各部署」という）が作成した報告をもとに、教育・研究及び組織、施設・

設備、財政状況等に関する活動状況について、自己点検・評価を行い、年度ごとに自己点検・評価報告書を作成し、大学評価委員会に報告している。

FD 専門委員会については、平成 20 年度は学長より降ろされた『育心育人』教育の推進に向けて、『学習成果』を保证するための FD 活動の推進」という大学部門目標に基づいて本学の FD 活動を推進し、これまでの成果を点検及び評価することを実質的なはたらきとした。

(d) 評価項目

評価項目は、平成 19 年度より、(財)日本高等教育評価機構が定める「大学評価基準」に準じて、11 の「基準項目」(①建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的、②教育・研究組織、③教育課程、④学生、⑤教員、⑥職員、⑦管理運営、⑧財務、⑨教育・研究環境、⑩社会連携、⑪社会的責務)を設け、項目ごとに「評価の基準」を設定している。「基準項目」「評価の基準」の内容については、(財)日本高等教育評価機構の「大学評価基準」等を参考に、自己点検・評価専門委員会が中心となって検証を行い、年度ごとに適宜改訂している。

(e) 評価結果の公表・活用

自己点検・評価結果は、平成 11 年度から 2 年ごとに『自己点検・評価報告書』(11・12 年度、13・14 年度、15・16 年度)として刊行し、全教職員に配布するとともに、学外 63 大学に送付した。平成 19 年度以降は、(財)日本高等教育評価機構による認証評価結果と、その際に作成した『平成 18 年度自己評価報告書』を大学ホームページ上で公表したことを機に、冊子形式の報告書の刊行を廃止し、年度ごとの評価結果を電子媒体によって、大学ホームページ上で広く学内外に公表している。

FD 活動に関しては、上記とは別に「文教 FD」と称して FD 活動報告書を作成し、ホームページ上で公表する形をとっている。また、年度末には教育企画検討委員会の主催による全教職員参加の研修会を開催し、学内での個人及び組織の FD 活動報告を行うことで評価結果が共有・活用され汎用性を持つような工夫をしている。

評価結果の活用については、「自己点検・評価専門委員会規程」第 9 条に、「教職員は、自己点検・評価の結果について、適切な方法をもって教育・研究活動等の向上のため活用するよう努めるものとする。」「自己点検・評価の結果については、教育・研究活動等の向上及び活性化の条件整備等に資するため、学校法人武田学園理事長に提供するものとする。」と明記されており、大学評価委員会を通して各部署に還元され、教育・研究活動及び組織、施設、設備、財務状況の改善・向上に活用している。

ト. 情報の提供

(a) 学部等の理念・目的

大学の理念・目標及びグローバルコミュニケーション学科の目的は、大学ホームページに掲載している (<http://www.h-bunkyo.ac.jp/>)。ホームページの維持・管理等は、学園統括部総合総合支援課が担当している。

(b) カリキュラム

人間科学部のカリキュラム（教養教育科目及び学科専門科目）の詳細（開設セメスター，単位数）については，大学ホームページ及び学生生活ハンドブックに記載している。

(c) シラバス

シラバスは，「ユニバーサル・パスポート」に掲載し，大学ホームページを通して，学外に公開している。

(d) 専任教員のプロフィール・研究成果・教育活動

大学ホームページに「教員紹介」を設けて専任教員の役職及び氏名を掲載している。また，独立行政法人科学技術振興機構の「研究開発支援総合ディレクトリ（ReaD）」に各教員の専門分野，研究業績等を登録し，毎年，更新している。

専任教員の研究成果や教育成果は，毎年，「広島文教女子大学紀要」という印刷物として発行し，全教員，事務局，学外に配布している。また，各学科には，学会があり，各種機関紙「文教国文学」「言語」「広島文教教育」「人間福祉研究」「心理教育センター年報」「広島文教食物栄養研究会誌」を刊行し，学会員である学生及び卒業生に配布している。

教育成果の広報活動として，大学広報誌「広島文教通信」，初等教育学科広報誌「初教かわら版」の発行，初等教育学科卒業演奏会，大学祭「文教祭」での学科展示，あるいは大学ホームページでの記事掲載などを行っている。

(e) 大学の基本情報

沿革，学則等各種規程，組織，図書館（所蔵資料数，サービス対象登録者数，利用状況），附属高校，附属幼稚園，附属施設概要，教職員数，学生数（定員及び在籍数），各年度入学状況及び学位授与・卒業状況，進路状況，各年度収支決算，校内配置図，所在地図等を基本情報として，大学ホームページの「事業報告・財務状況」に公開している。「事業報告・財務状況」の作成等は，経理課が責任部局として担当している。

(f) 自己点検・評価報告書

広島文教女子大学自己点検評価専門委員会が毎年実施する自己点検・評価結果を報告書にまとめ（『広島文教女子大学自己点検・評価報告書』），全教員，職員及び役員・評議員に配布していた。平成 19 年度からは，大学ホームページに掲載し，広く学内外に公表している。また，FD 活動報告は『文教 FD』として刊行し，全教員，職員に配布している。

(g) 公開講義，公開講座，司書講習等

公開講義「人生論」や市民等を対象とした各種公開講座，司書講習については，エクステンションセンターが毎年，大学ホームページに掲載するとともに，「広島文教女子大学公開講座の案内」や「司書講習案内」という広報紙として，地域社会に幅広く情報提供している。

(h) 大学広報

広報紙「広島文教通信」を年 2 回 4 月と 9 月に約 5,000 部発行し，学生，保護者，高校，企業等に幅広く配布している。内容は，大学の教育内容や教育指針，教職員の研究活動，教職員の人事，

学生の活動及び財務状況等を掲載している。広報紙の編集・刊行は、入試広報センターが担当している。

(i) その他

グローバルコミュニケーション学科の設置認可申請書（「設置の趣旨及び必要性」を記載した書類）については、認可申請後、速やかに大学ホームページに掲載する。

ナ. 教員の資質の維持向上の方策

人間科学部は、平成 15 年度より、教員の資質向上を図り、学士課程教育の質的向上を推進するために、「学生による授業評価アンケート」を原則として前後期の各期に実施している。学生による授業評価アンケート結果は、授業担当者全員にフィードバックし、学生の評価に基づくコメント等を記載し、学生が閲覧できるように一定期間において学内用ホームページで公開している。

また、平成 20 年度は学生生活全般に対する意識・満足度調査を行い、その調査結果の概要は「学部将来計画プロジェクトの活動報告」として、平成 20 年度末の大学研修会で報告した。

大学研修会は、教育・研究企画委員会が主催し、全教職員が参加し、毎年度 3 月に開催している。テーマは、学科の教育活動、FD、地域貢献を目指すソシオ活動等、その時々課題を設定し、多彩な内容を盛り込んでいる。FD としての教員研修においては、学内での個人及び組織の FD 活動報告を行い、その活動内容を共有することで教員への FD 活動を啓発している。

全学的に、次の FD を実施している。

(a) 授業シラバスの深化

各教員が作成するシラバスに授業の到達目標や成績評価方法を記載し、学習成果の質の保証を目指す。

(b) 教員の授業研究

教員相互による授業参観、授業内容や方法に関する助言を行い、授業の改善を図る。

(c) 学生による授業評価アンケート結果の自己点検・評価と FD 活動の立案

各期末に実施している学生による授業評価アンケートの結果を、個人ごとに自己点検・評価し、それぞれの授業の課題、問題点、評価できる点等を抽出し、改善点等を明確にし、FD 活動計画を立てる。

(d) 研究成果の定期的公開

各教員の研究活動を活性化するために、研究員を募集し、年度末の大学研修会で研究成果等を発表し、各教員の研究活動内容について共通理解するとともに、全学に個人及び共同研究を積極的に推進する。

(e) FD 専門委員会を中心とした全学的な FD 活動

FD 専門委員会が授業改善，教員の職能開発といった様々な FD 活動の企画・運営を行い，全学に FD 活動を推進させている。

資料１：グローバルコミュニケーション学科授業科目一覧参照

		履修年次							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
教養教育科目	人間科学部	文芸学入門 キャンパスライフプランニング 大学での学びⅠ	人間科学基礎演習 人間科学入門 大学での学びⅡ	フィールドワーク演習		人生論			
	現代教育科目群	A				現代思想と哲学 文学を読む意味	日本とヒロシマの歴史 言葉とコミュニケーション	現代思想と哲学 文学を読む意味	日本とヒロシマの歴史 言葉とコミュニケーション
		B				くらしの中の心理学 くらしと法律	くらしと経済 くらしと社会福祉	くらしの中の心理学 くらしと法律	くらしと経済 くらしと社会福祉
		C				社会と生命科学 食の科学	くらしの科学 からだの科学	社会と生命科学 食の科学	くらしの科学 からだの科学
		D				欧米と日本 社会と女性 地域と社会 環境の科学	アジアと日本 子どもと社会 防災と社会 健康科学	欧米と日本 社会と女性 地域と社会 環境の科学	アジアと日本 子どもと社会 防災と社会 健康科学
		E		日本国憲法 健康とスポーツ	日本国憲法 人権問題の歩みとその展望	西洋の美術の歴史 民俗学	日本とアジアの美術の歴史 自然科学史	西洋の美術の歴史 民俗学	日本とアジアの美術の歴史 自然科学史
	国際教育系	英語コミュニケーションⅠ イングリッシュワークショップⅠ		英語コミュニケーションⅡ イングリッシュワークショップⅡ		英語コミュニケーションⅢ イングリッシュワークショップⅢ		英語コミュニケーションⅣ イングリッシュワークショップⅣ	
		英語コミュニケーションⅠ イングリッシュワークショップⅠ		英語コミュニケーションⅡ イングリッシュワークショップⅡ		英語コミュニケーションⅢ イングリッシュワークショップⅢ		英語コミュニケーションⅣ イングリッシュワークショップⅣ	
		英語コミュニケーションⅠ イングリッシュワークショップⅠ		英語コミュニケーションⅡ イングリッシュワークショップⅡ		英語コミュニケーションⅢ イングリッシュワークショップⅢ		英語コミュニケーションⅣ イングリッシュワークショップⅣ	
		英語コミュニケーションⅠ イングリッシュワークショップⅠ		英語コミュニケーションⅡ イングリッシュワークショップⅡ		英語コミュニケーションⅢ イングリッシュワークショップⅢ		英語コミュニケーションⅣ イングリッシュワークショップⅣ	
	スキル教育科目群	情報処理演習Ⅰ		情報処理演習Ⅱ		ウェブデザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅰ		デザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅱ	
		情報処理演習Ⅰ		情報処理演習Ⅱ		ウェブデザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅰ		デザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅱ	
		情報処理演習Ⅰ		情報処理演習Ⅱ		ウェブデザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅰ		デザイン概論 ウェブデザイン基礎演習Ⅱ	
	生涯教育系	運動学演習Ⅰ 障害コミュニケーション技術 運動学演習Ⅲ		運動学演習Ⅱ 障害コミュニケーション技術 運動学演習Ⅳ		運動学演習Ⅲ		運動学演習Ⅳ	
		運動学演習Ⅰ 障害コミュニケーション技術 運動学演習Ⅲ		運動学演習Ⅱ 障害コミュニケーション技術 運動学演習Ⅳ		運動学演習Ⅲ		運動学演習Ⅳ	
	キャリア教育	キャリア形成概論Ⅰ		キャリア形成概論Ⅱ コミュニケーションとソーシャルスキル インターンシップ		ビジネス文書 プレゼンテーション技法		クリエイティブマネジメント マーケティング	
学科専門科目	専門基礎科目	Basic English Communication Ⅰ Reading Strategies Ⅰ Writing Strategies Ⅰ		Basic English Communication Ⅱ Reading Strategies Ⅱ Writing Strategies Ⅱ		Reading Strategies Ⅲ Writing Strategies Ⅲ International Communication Strategies Ⅰ		Reading Strategies Ⅳ Writing Strategies Ⅳ International Communication Strategies Ⅱ	
		英語学基礎演習Ⅰ		英語学基礎演習Ⅱ		TOEIC Ⅰ 英語学概論 英米文学概論		TOEIC Ⅱ	
		グローバルコミュニケーション論 話しことば概論 現代ビジネスの基礎Ⅰ（経済学の基礎知識） オフィスコミュニケーションⅠ		異文化理解 話しことば表現演習 現代ビジネスの基礎Ⅱ（経営戦略の基礎知識） オフィスコミュニケーションⅡ		WEBコミュニケーション演習Ⅰ 日本語文章論 現代ビジネスの基礎Ⅲ（ビジネス関連法規・法律等の基礎知識）		マルチメディアコミュニケーションⅠ 日本語文章表現演習 現代ビジネスの基礎Ⅳ（会計・ビジネス統計の基礎知識）	
		グローバルコミュニケーション論 話しことば概論 現代ビジネスの基礎Ⅰ（経済学の基礎知識） オフィスコミュニケーションⅠ		異文化理解 話しことば表現演習 現代ビジネスの基礎Ⅱ（経営戦略の基礎知識） オフィスコミュニケーションⅡ		WEBコミュニケーション演習Ⅰ 日本語文章論 現代ビジネスの基礎Ⅲ（ビジネス関連法規・法律等の基礎知識）		マルチメディアコミュニケーションⅠ 日本語文章表現演習 現代ビジネスの基礎Ⅳ（会計・ビジネス統計の基礎知識）	
	専門応用科目	Tourism English Ⅰ Business Communication Ⅰ English for Education Ⅰ Academic English Ⅰ English in Popular Culture Ⅰ Hospitality English Ⅰ		Tourism English Ⅱ Business Communication Ⅱ English for Education Ⅱ Academic English Ⅱ English in Popular Culture Ⅱ Hospitality English Ⅱ		Tourism English Ⅲ Business Communication Ⅲ English for Education Ⅲ Academic English Ⅲ English in Popular Culture Ⅲ Hospitality English Ⅲ		Tourism English Ⅳ Business Communication Ⅳ English for Education Ⅳ Academic English Ⅳ English in Popular Culture Ⅳ Hospitality English Ⅳ	
		Tourism English Ⅰ Business Communication Ⅰ English for Education Ⅰ Academic English Ⅰ English in Popular Culture Ⅰ Hospitality English Ⅰ		Tourism English Ⅱ Business Communication Ⅱ English for Education Ⅱ Academic English Ⅱ English in Popular Culture Ⅱ Hospitality English Ⅱ		Tourism English Ⅲ Business Communication Ⅲ English for Education Ⅲ Academic English Ⅲ English in Popular Culture Ⅲ Hospitality English Ⅲ		Tourism English Ⅳ Business Communication Ⅳ English for Education Ⅳ Academic English Ⅳ English in Popular Culture Ⅳ Hospitality English Ⅳ	
		Tourism English Ⅰ Business Communication Ⅰ English for Education Ⅰ Academic English Ⅰ English in Popular Culture Ⅰ Hospitality English Ⅰ		Tourism English Ⅱ Business Communication Ⅱ English for Education Ⅱ Academic English Ⅱ English in Popular Culture Ⅱ Hospitality English Ⅱ		Tourism English Ⅲ Business Communication Ⅲ English for Education Ⅲ Academic English Ⅲ English in Popular Culture Ⅲ Hospitality English Ⅲ		Tourism English Ⅳ Business Communication Ⅳ English for Education Ⅳ Academic English Ⅳ English in Popular Culture Ⅳ Hospitality English Ⅳ	
		Tourism English Ⅰ Business Communication Ⅰ English for Education Ⅰ Academic English Ⅰ English in Popular Culture Ⅰ Hospitality English Ⅰ		Tourism English Ⅱ Business Communication Ⅱ English for Education Ⅱ Academic English Ⅱ English in Popular Culture Ⅱ Hospitality English Ⅱ		Tourism English Ⅲ Business Communication Ⅲ English for Education Ⅲ Academic English Ⅲ English in Popular Culture Ⅲ Hospitality English Ⅲ		Tourism English Ⅳ Business Communication Ⅳ English for Education Ⅳ Academic English Ⅳ English in Popular Culture Ⅳ Hospitality English Ⅳ	
	卒業研究	総合演習Ⅰ		総合演習Ⅱ		卒業研究		卒業研究	
		総合演習Ⅰ		総合演習Ⅱ		卒業研究		卒業研究	

資料２：①英語スペシャリストプログラム(通訳・翻訳者、英語教員等)

1年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication I	1 英語学基礎演習 I	1 文法学入門	2 English Workshop I	1 Basic English Communication I	1	
	2	Reading Strategies I	1 Basic English Communication I	1 キャンパスライフ	2 情報処理演習 I	1 話しことば概論	2	
	3	グローバルコミュニケーション論	2 運動学演習 I	1 Writing Strategies I	1 現代ビジネスの基礎 I	2		
	4	オフィスコミュニケーション I						
		4	3	5	4	3	19	
	後	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication II	1 英語学基礎演習 II	1 人間科学入門	2 English Workshop II	1 Basic English Communication II	1	
	2	Reading Strategies II	1 Basic English Communication II	1 人間科学基礎演習	2 情報処理演習 II	1 話しことば表現演習	1	
	3	異文化理解	2 運動学演習 II	1 Writing Strategies II	1 現代ビジネスの基礎 II	2		
	4	オフィスコミュニケーション II						
2年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies III	1 日本語文章論	2 Writing Strategies III	1	English Workshop III	1	
	2	世界史の中の日本	2 English Communication III	1 英米文学概論	2 ICS1	1 児童英語入門 I	2	
	3	日本国憲法	2 英語学概論	2 TOEIC I	1 WEBコミュニケーション演習 I	1		
	4							
		5	5	4	2	3	19	
	後	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies IV	1 日本語文章表現演習	1 Writing Strategies IV	1	English Workshop IV	1	
	2	英語文化圏論	2 English Communication IV	1 英米文学研究	2 ICS2	1		
	3	人権問題の歩みとその展望	2 英語学研究	2 TOEIC II	1 WEBコミュニケーション演習 II	1		
	4							
3年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 I	1	英語の音声	2	児童英語教育法	2	
	2	ICS3	1 フランス語 I	1		児童英語教育法	2	
	3		English Workshop V	1 文学を読む意味	2	English for Education I	1	
	4			欧米と日本	2			
		2	2	6	0	5	15	
	後	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 II	1	英語ディスコース研究	2 児童英語指導法	2		
	2	ICS4	1 フランス語 II	1	児童英語指導法	2		
	3		English Workshop VI	1 こどもと社会	2	English for Education II	1	
	4			アジアと日本	2			
4年	前	月	火	水	木	金	土	
	1		英語学講義	2 英米文学講義	2			
	2		卒業研究	1 Academic English I	1			
	3	児童英語実習	1 卒業研究	1 からだの科学	2 English in Popular Culture I	1		
	4	児童英語実習	1 フランス語Ⅲ	1 暮らしの中の心理学	2			
		2	5	7	1	0	15	
	後	月	火	水	木	金	土	
	1			英米文学史	2			
	2		卒業研究	1 Academic English II	1			
	3		卒業研究		English in Popular Culture II	1		
	4		フランス語Ⅳ	1				
		0	3	3	1	0	7	
		英語・外国語関連科目	多文化関連科目	キャリア関連科目	教養関連科目	卒業単位数合計		124

資料３：②ビジネスコミュニケーションプログラム（流通・金融等の国際的企業等）

1年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication I	1 英語学基礎演習 I	1 文教学入門	2 English Workshop I	1 Basic English Communication I	1	
	2	Reading Strategies I	1 Basic English Communication I	1 キャンパスライフ	2 情報処理演習 I	1 話しことば概論	2	
	3	グローバルコミュニケーション論	2 運動学演習 I	1 Writing Strategies I	1 現代ビジネスの基礎 I	2		
	4	オフィスコミュニケーション I	1					
		5	3	5	4	3	20	
1年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication II	1 英語学基礎演習 II	1 人間科学入門	2 English Workshop II	1 Basic English Communication II	1	
	2	Reading Strategies II	1 Basic English Communication II	1 人間科学基礎演習	2 情報処理演習 II	1 話しことば表現演習	1	
	3	異文化理解	2 運動学演習 II	1 Writing Strategies II	1 現代ビジネスの基礎 II	2		
	4	オフィスコミュニケーション II	1			キャリア形成概論 I	2	
		5	3	5	4	4	21	
2年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies III	1 日本語文章論	2 Writing Strategies III	1 現代ビジネスの基礎 III	2 English Workshop III	1 キャリア形成概論 II	2
	2	世界史の中の日本	2 English Communication III	1	1 ICS1	1	1 コミュニケーションスキル	1
	3			1 TOEIC I	1 WEBコミュニケーション演習 I	1 ロジカルシンキング	2	
	4							
		3	3	2	4	3	18	
2年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies IV	1 日本語文章表現演習	1 Writing Strategies IV	1 現代ビジネスの基礎 IV	2 English Workshop IV	1 ビジネス文書	2
	2	英語文化圏論	2 English Communication IV	1	1 ICS2	1	1 プレゼンテーションスキル	1
	3			1 TOEIC II	1 WEBコミュニケーション演習 II	1 クリティカルシンキング	2	
	4							
		3	2	2	4	3	17	
3年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 I	1				1 クリエイティブシンキング	2
	2	ICS3	1 ファイナンスの基礎	2	1 キャリア・ピア・サポート基礎	2	1 マーケティング	2
	3		English Workshop V	1 現代思想と哲学	2 Business Communication I	1		
	4		中国語 I	1 暮らしの中の心理学	2			
		2	4	4	3	0	17	
3年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 II	1					
	2	ICS4	1 ロジスティクスの基礎	2		1 キャリア・ピア・サポート応用	2	
	3		English Workshop VI	1 アジアと日本	2 Business Communication II	1		
	4		中国語 II	1 欧米と日本	2			
		2	4	4	1	2	13	
4年	前	月	火	水	木	金	土	
	1				1 国際社会と日本の役割	2		
	2					1 産業心理学	2	
	3	卒業研究	1 中国語 III	1 社会と生命科学	2 English in Popular Culture I	1		
	4	卒業研究	1 English Workshop VII	1 メディアと社会	2			
		2	2	4	3	2	13	
4年	後	月	火	水	木	金	土	
	1							
	2							
	3	卒業研究	1 中国語 IV	1	1 English in Popular Culture II	1		
	4	卒業研究	1 English Workshop VIII	1				
		2	2	0	1	0	5	
		英語・外国語関連科目	多文化関連科目	キャリア関連科目	教養関連科目	卒業単位数合計		124

資料４：③ホスピタリティコミュニケーションプログラム（旅行・航空・ホテル・出版広告等）

1年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication I	英語学基礎演習 I	文教学入門	English Workshop I	Basic English Communication I		
	2	Reading Strategies I	Basic English Communication I	キャンパスライフ	情報処理演習 I	話しことば概論		
	3	グローバルコミュニケーション論	運動学演習 I	Writing Strategies I	現代ビジネスの基礎 I			
	4	オフィスコミュニケーション I						
		5	3	5	4	3	20	
1年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	English Communication II	英語学基礎演習 II	人間科学入門	English Workshop II	Basic English Communication II		
	2	Reading Strategies II	Basic English Communication II	人間科学基礎演習	情報処理演習 II	話しことば表現演習		
	3	異文化理解	運動学演習 II	Writing Strategies II	現代ビジネスの基礎 II			
	4	オフィスコミュニケーション II				キャリア形成概論 I		
		5	3	5	4	4	21	
2年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies III	日本語文章論	Writing Strategies III	現代ビジネスの基礎 III	English Workshop III	キャリア形成概論 II	
	2	世界史の中の日本	English Communication III		ICS1			
	3			TOEIC I	WEBコミュニケーション演習 I			
	4							
		3	3	4	4	1	17	
2年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	Reading Strategies IV	日本語文章表現演習	Writing Strategies IV	現代ビジネスの基礎 IV	English Workshop IV		
	2	英語文化圏論	English Communication IV		ICS2			
	3			TOEIC II	マルチメディアコミュニケーション			
	4							
		3	2	2	4	1	12	
3年	前	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 I	観光地理 I (国内)		観光産業論			
	2	ICS3		Tourism English I				
	3		デザイン概論	日本とヒロシマの歴史				
	4	漢字文化圏論	ウェブデザイン基礎演習 I	くらしの中の心理学				
		4	5	5	2	0	16	
3年	後	月	火	水	木	金	土	
	1	総合演習 II				旅行業概論	企業経営と数理	
	2	ICS4		Tourism English II			経営情報システム	
	3	観光地理 II (海外)	ウェブデザイン概論	アジアと日本				
	4		ウェブデザイン基礎演習 II	欧米と日本				
		4	3	5	0	2	18	
4年	前	月	火	水	木	金	土	
	1				国際社会と日本の役割		データベース	
	2							
	3	卒業研究	ウェブデザイン演習 I	食の科学		Hospitality English I		
	4	卒業研究	マルチメディア演習 I	メディアと社会				
		2	2	4	2	1	13	
4年	後	月	火	水	木	金	土	
	1						情報倫理	
	2							
	3	卒業研究	ウェブデザイン演習 II			Hospitality English II		
	4	卒業研究	マルチメディア演習 II					
		2	2	0	0	1	7	
英語・外国語関連科目								124
多文化関連科目								
キャリア関連科目								
教養関連科目								
卒業単位数合計								